

社会福祉法人

風土記

《33》

丘庸傳



由村陽二氏（左）と瀧保善夫氏

時定員34人と小規模な施設で、身体障害者、知的障害者、病弱者、傷痍軍人、筋萎縮症の人などさまざま人が入所していました。当時はそれぞれの障害に応じた施設が少ないので、時代だったので、知的・精神・身体と重複障害の人を受け入れる所がなくして、そういう「福祉の谷間」の人も受け入れていました。当時の施設は全国的にも居住環境が悪く、「ゴミ箱」という表現をした人もいたとい

100周年 機に再出発

行き場のない子どもや失業者、高齢者、障害者を保護し治療しようと始まった「神戸報国義会」は、1992（平成4）年、福祉事業開始100周年を迎へ、名称を「社会福祉法人神戸光有会」（神戸市兵庫区夢野町）と改めて再出発した。名前は変わったが、神戸市役所から行路病人の収容・救護を嘱託された創立当時から果たしてきたセーフティーネットの役割は変わらなかつた。

野老人ホーム」施設長(76)は説明する。
行政厅からの委託を受け、生活が困難で手助けが必要とされた人たちの入所を引き受ける代わりに、その費用(措置費)

雪音花の分野で
るサービスを契約する
度が始まつたが、措置
度を必要とする人たち
今も多くいるのが現
だ。

神戸市役所職員とし
生活保護、児童相談な
いふかに経営改革をす
「収益事業が少ない
ビジョン」と課題を話す
福祉分野一筋44年の経
を持つ井上副理事長は
これからの中光有会

機に再出発

人を受け入れる所がなく、そういう“福祉の谷間”的な人も受け入れていた。当時の施設は全国的にも居住環境が悪く、人間のゴミ箱というすうい表現をした人もいた。

A portrait photograph of Kōtetsu Kubo, a man with glasses and a white shirt, smiling.

A portrait of Toshiyuki Kurokawa, a man with short dark hair and glasses, wearing a dark jacket over a light-colored shirt. He is looking slightly to his left.

ていくかが課題です。そのためにも今まできちんととしていなかつた事務員の体制を整備したい。20代の職員が少ないので若返りを図りたい。施設長も今後は生え抜き、パートがやるのが理想だ。行政側の財政事情が厳くなっているので、法

政策変更に応じて、中
を大きく変えてきた。中
戸光有会の原点であり
社の原点でもあるセー
ティー・ネット、救護施
も例外ではない。19
7年から44年間勤続し
満保善夫氏（73）が回
する。

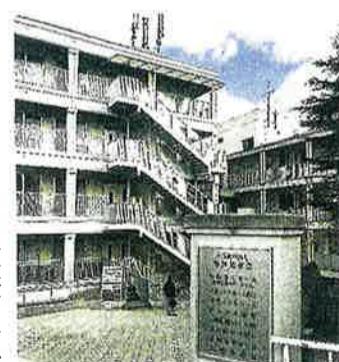
「うちの救護施設は

「当初は贊否いろいろ問題が起きたらどうすりという心配の声もあつたが、近くの医療機関の先生たちが連携して24時バックアップすると言ってくれて道が開けた。それで他の県にも広まつていきました」

“施設から地域』先駆ける



本部へ道路を隔て
建つ母子ホーム



現在の神戸光有会

は、新しいことに取り組んでいる。

ホーム内には児童会があり、8人ずつ五つのユニットごとに意見や要望を出し話し合いで決めている。

樋岡正行施設長（57）は「食事メニューの変更、門限を遅くする」と毎

して半数以上が働く中学生たちには勉強の手伝い、受験相談などきめ細かい指導に努めている。松下孝施設長（69）は「自立目標を達成してこのから新たな生活に乗り出していく母子を見る」とうれしい。最近、発達障害についての知識をもつて、

こから新たな生活中に慣れ
出していく母子を見るこ
うれしい。最近、発達障
害の子どもが増えてきて
いるので、今後は心理適
応貢などのスタッフが必
要」と、網目の細かい「
セーフティーネットの建
備にも手を尽くす。

網谷隆司郎

月のお小遣いアツブなど、自分たちのことは自分で決めるということを実践させています」と、うれしそうに話す。

小学生の放課後の学童保育から始まつた児童館の活動も、中学生をリーダーにして近くの児童公園でも遊べるようにしたほか、保護者や地域の住民と一緒に催す夏祭りや卓球大会などに発展した。

2018 2 26